イノベーションに情熱を。
ひとに思いやりを。

Daiichi-Sankyo

第一三共の現況と成長戦略

第一三共株式会社

代表取締役社長 兼 CEO
眞鍋　淳

2023年2月16日（木）

将来の見通しに関する注意事項

本書において当社が開示する経営戦略・計画、業績予想、将来の予測や方針に関する情報、研究開発に関する情報等につきましては、全て将来を見込んだ見解です。これらの情報は、開示時点で当社が入手している情報に基づく一定の前提・仮定及び将来の予測等を基礎に当社が判断したものであり、これらには様々なリスク及び不確実性が内在しております。従いまして、実際の当社の業績は、当社の見解や開示内容から大きくかい離する可能性があることをご留意願います。また、本書において当初設定した目標は、全て実現することを保証しているものではありません。なお、実際の結果等にかかわらず、当社は本書の日付以降において、本書に記述された内容を随時更新する義務を負うものではなく、かかる方針も有していません。

本書において当社が開示する開発中の化合物は治験薬であり、開発中の適応症治療薬としてFDA等の規制当局によって承認されてはおりません。これらの化合物は、対象地域においてまだ有効性と安全性が確立されておらず、開発中の適応症で市販されることを保証するものではありません。

当社は、本書に記載された内容について合理的な注意を払うよう努めておりますが、記載された情報の内容の正確性、適切性、網羅性、実現可能性等について、当社は何ら保証するものではありません。また、本書に記載されている当社グループ以外の企業・団体その他に係る情報は、公開情報等を用いて作成ないし記載したものであり、かかる情報の正確性、適切性、網羅性、実現可能性等について当社は独自の検証を行っておらず、また、これを何ら保証するものではありません。

本書に記載の情報は、今後予告なく変更されることがあります。従いまして、本書又は本書に記載の情報の利用については、他の方法により入手した情報とも照合し、利用者の判断においてご利用ください。

本書は、米国又は日本国内外を問わず、いかなる証券についての取得申込みの勧誘又は販売の申込みではありません。

本書は投資家判断の参考となる情報の公開のみを目的としており、投資に関する最終決定はご自身の責任においてご判断ください。

当社は、本書に記載された情報の誤り等によって生じた損害について一切責任を負うものではありません。

本日お話する内容

1. 医薬品の分類と市場

2. 第一三共の現況

3. 第一三共の成長戦略
～第5期中期経営計画～

医薬品の分類

医　薬　品

医療用医薬品

- 医師の処方箋が必要

金額ベースの割合*1
約９：１

OTC医薬品等

- 一般用医薬品や配置用家庭薬など
- 薬局やドラッグストアなどで購入可能

新　薬
（イノベーティブ医薬品）

満たされていない医療ニーズの充足
- 独占販売期間が認められている

金額ベースの割合*2
約８：２

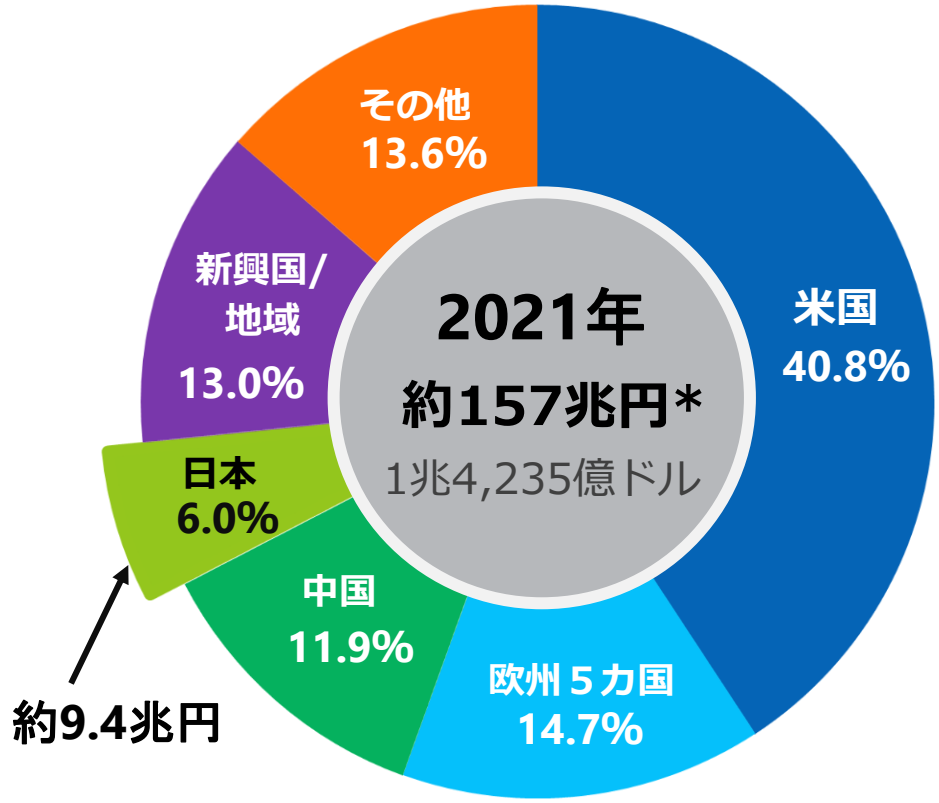
後発医薬品
（ジェネリック医薬品）

医療費の抑制
- 独占販売期間が過ぎた後に発売

＊1：参照：厚生労働省「薬事工業生産動態統計年報」第１表 医薬品生産金額の推移
＊2：厚生労働省「令和4年度薬価基準改定の概要」をもとに当社にて算出

世界の医薬品市場（2021年）

地域別シェア



年平均成長率予測（2022-2026年）

グローバル	3～6%
米国	2.5～5.5%
欧州5カ国	3～6%
中国	2.5～5.5%
日本	-2～1%

＊1ドル＝110円換算

欧州5カ国　：ドイツ、フランス、英国、イタリア、スペイン
新興国/地域：ブラジル、インド、ロシア、アルゼンチン、バングラデシュ、チリ、コロンビア、エジプト、ハンガリー、インドネシア、メキシコ、パキスタン、フィリピン、ポーランド、ルーマニア、サウジアラビア、南アフリカ、台湾、トルコ、ウクライナ、ベトナム
出　　典　：IQVIA INSTITUTE, The Global Use of Medicines 2022 OUTLOOK TO 2026をもとに当社作成
著 作 権　：Copyright © 2023 IQVIA.　無断転載禁止

治療領域別での市場規模予測と成長率予測

順位	治療領域*1	2026年 市場規模予測*2	年平均成長率予測（2022-2026年）
1	がん領域	42.8兆円	9～12%
2	自己免疫疾患領域	24.9兆円	6～9%
3	糖尿病領域	24.2兆円	6～9%
4	神経領域	21.1兆円	3～6%
5	抗凝固剤	12.1兆円	8～11%
6	心臓血管領域	12.1兆円	4～7%

＊1：弊社和訳。原文表記は順位1から順に、Oncology, immunology (treatment for autoimmune disorders), antidiabetics, neurology, anticoagulants, cardiovascular
＊2：1ドル=140円換算

出　典　：IQVIA INSTITUTE, The Global Use of Medicines 2022 OUTLOOK TO 2026をもとに当社作成
著作権：Copyright © 2023 IQVIA.　無断転載禁止

本日お話する内容

1. 医薬品の分類と市場

2. 第一三共の現況

3. 第一三共の成長戦略
～第5期中期経営計画～

当社のパーパスと最大の強み

企業理念

パーパス（存在意義）

世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する

ミッション

革新的医薬品を継続的に創出し、
多様な医療ニーズに応える医薬品を提供する

最大の強み　サイエンス&テクノロジー

創薬型企業としての歴史

長年引き継がれてきた強力な研究開発のDNA

1899 三共

初代社長
高峰譲吉博士
ﾀｶﾁﾞｱｽﾀｰｾﾞ、ｱﾄﾞﾚﾅﾘﾝの発見

1915 第一製薬

前身のｱｰｾﾐﾝ商会を設立
慶松勝左衛門博士
ｻﾙﾊﾞﾙｻﾝを国産化 (ｱｰｾﾐﾝ)

高コレステロール血症治療剤
1989 メバロチン®

一般名：ﾌﾟﾗﾊﾞｽﾀﾁﾝ

高血圧症治療剤
2002 オルメテック®

一般名：ｵﾙﾒｻﾙﾀﾝ

合成抗菌剤
1993 クラビット®

一般名：ﾚﾎﾞﾌﾛｷｻｼﾝ

第一三共

抗血小板剤
2009 エフィエント®

一般名：ﾌﾟﾗｽｸﾞﾚﾙ

抗凝固剤
2011 リクシアナ®

一般名：ｴﾄﾞｷｻﾊﾞﾝ

抗悪性腫瘍剤
2020 エンハーツ®

一般名：ﾄﾗｽﾂｽﾞﾏﾌﾞ ﾃﾞﾙｸｽﾃｶﾝ

連結業績：今期予想

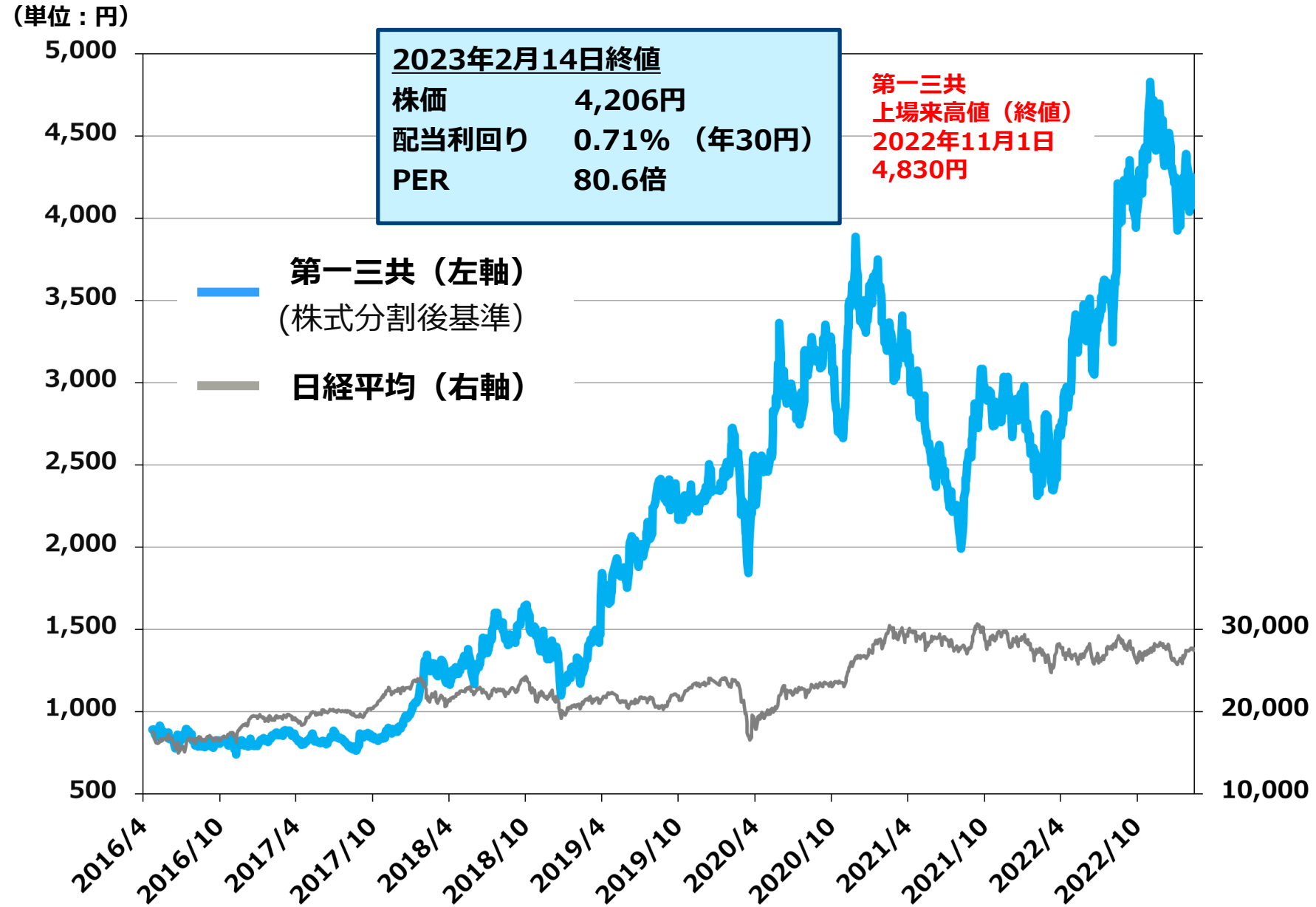
（単位：億円）

	2021年度実績	2022年度予想（1月公表）	増減額
売上収益	10,449	12,500	+2,051
売上原価*	3,480	3,380	-100
販売費・一般管理費*	3,521	4,680	+1,159
研究開発費*	2,541	3,240	+699
コア営業利益*	906	1,200	+294
営業利益	730	1,300	+570
当期利益（親会社帰属）	670	1,000	+330

2022年度予想の為替レートの前提
USD/円　134.90円
EUR/円　140.45円

＊当社は、経常的な収益性を示す指標として、営業利益から一過性の収益・費用を除外したコア営業利益を開示しています。
一過性の収益・費用には、固定資産売却損益、事業再編に伴う損益（開発品や上市製品の売却損益を除く）、有形固定資産、無形資産、のれんに係る減損損失、損害賠償や和解等に伴う損益の他、非経常的かつ多額の損益が含まれます。
本表では売上原価、販売費・一般管理費、研究開発費について、一過性の収益・費用を除く実績を示しています。

株価の推移


（単位：円）
2023年2月14日終値
株価 4,206円
配当利回り 0.71%（年30円）
PER 80.6倍
第一三共
上場来高値（終値）
2022年11月1日
4,830円
第一三共（左軸）
(株式分割後基準)
日経平均（右軸）
5,000
4,500
4,000
3,500
3,000
2,500
2,000
1,500
1,000
500
30,000
20,000
10,000
2016/4
2016/10
2017/4
2017/10
2018/4
2018/10
2019/4
2019/10
2020/4
2020/10
2021/4
2021/10
2022/4
2022/10

本日お話する内容

1. 医薬品の分類と市場

2. 第一三共の現況

3. 第一三共の成長戦略
～第5期中期経営計画～

第一三共の価値創造プロセスとESG経営

社会からの要請

- アンメットメディカルニーズへの対応
- 高品質な医薬品の提供
- 医薬品アクセスの向上
- ESGの取り組みその他の要請

投入資本

- 財務資本
- 製造資本
- 知的資本
- 人的資本
- 社会・関係資本
- 自然資本

企業理念

- パーパス（存在意義）：世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する
- ミッション：革新的医薬品を継続的に創出し、多様な医療ニーズに応える医薬品を提供する

第一三共のバリューチェーン

最大の強み：サイエンス＆テクノロジー

事業基盤に関わるマテリアリティ

- ◆コンプライアンス経営の推進
- ◆企業理念の実現に向けたコーポレートガバナンス
- ◆競争力と優位性を生み出す多様な人材の活躍推進と育成
- ◆環境経営の推進

マテリアリティ（持続的成長に向けて取り組むべき重要課題）

事業に関わるマテリアリティ

- 革新的な医薬品の創出
- 高品質な医薬品の安定供給
- 高品質な医療情報の提供
- 医療アクセスの拡大

ステークホルダーや社会への価値提供

- 患者さんとそのご家族・医療関係者
- 株主・投資家
- 社会・自然環境
- 従業員

価値創造の循環による持続的な価値創造

第5期中期経営計画の位置付け

ESG経営のもと、2025年度目標がんに強みを持つ先進的グローバル創薬企業を達成し、2030年ビジョン実現に向けた成長ステージに移行

2030年ビジョン

サステナブルな社会の
発展に貢献する
先進的グローバル
ヘルスケアカンパニー

第5期中計 戦略の柱

2025年度目標を達成し成長ステージへ

2025年度計数目標

- ◆売上収益：1兆6,000億円 （がん領域：6,000億円以上）
- ◆研究開発費控除前 コア営業利益率：40%
- ◆ROE：16%以上
- ◆DOE*：8%以上

3ADC最大化の実現

- ◆アストラゼネカとの戦略的提携を通じたエンハーツ®、Dato-DXd最大化
- ◆HER3-DXdの自社開発と最大化
- ◆製品ポテンシャルに合わせた効率的・段階的な要員・供給キャパシティ拡大

既存事業・製品の利益成長

- ◆リクシアナ®利益最大化
- ◆タリージェ®、Nilemdo®等の早期拡大
- ◆新薬を軸とした収益構造へのトランスフォーメーション
- ◆アメリカン・リージェント、第一三共ヘルスケアの利益成長

更なる成長の柱の見極めと構築

- ◆3ADCに次ぐ成長ドライバーの見極め
- ◆ポストDXd-ADCモダリティの選定

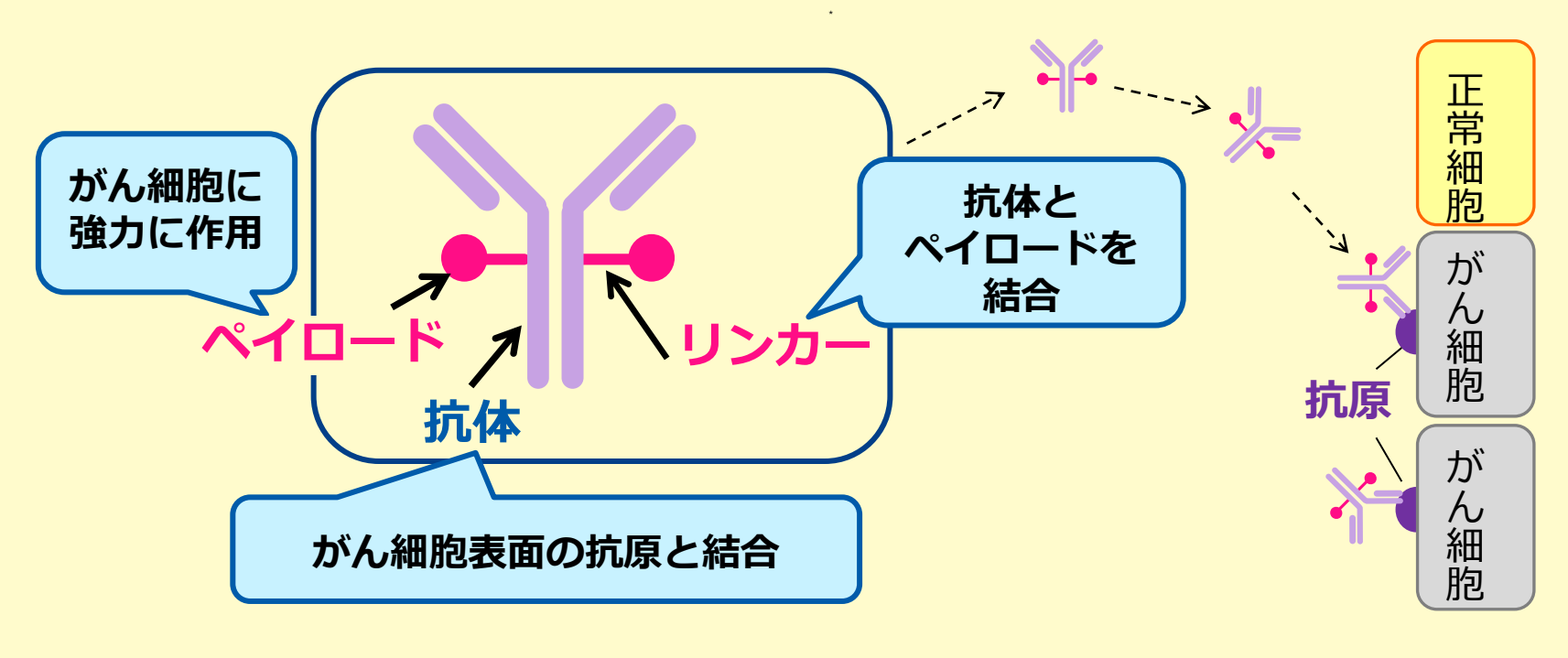
ステークホルダーとの価値共創

- ◆患者さん：Patient Centric Mindsetによる患者さんへの貢献
- ◆株主：バランスのとれた成長投資と株主還元
- ◆社会：バリューチェーン全体の環境負荷の低減、およびパンデミックリスクへの対応
- ◆従業員：One DS Cultureの醸成に向けたCore Behaviorの実践

- ◆DX推進によるデータ駆動型経営の実現と先進デジタル技術による全社の変革
- ◆新たなグローバルマネジメント体制による迅速な意思決定の実現

＊DOE：株主資本配当率 ＝ 配当総額 ÷ 株主資本（親会社の所有者に帰属する持分）

抗体薬物複合体（ADC）



当社独自のADC技術

ADC技術の解説動画をコーポレートウェブサイトで配信
https://www.daiichisankyo.co.jp/investors/individual/cancer/

ADC：Antibody Drug Conjugateの略

グローバル主力製品：エンハーツ®

- HER2抗原を標的とするADC（抗HER2 ADC）

- 一般名：トラスツズマブ デルクステカン
- アストラゼネカとの戦略的提携（2019年3月締結）

提携内容： エンハーツ®に関する共同開発・共同販促

対象地域： グローバル

受領対価： 最大で総額 7,590億円

- 契約時一時金　1,485億円
- 開発マイルストン等　最大4,180億円
- 販売マイルストン　最大1,925億円

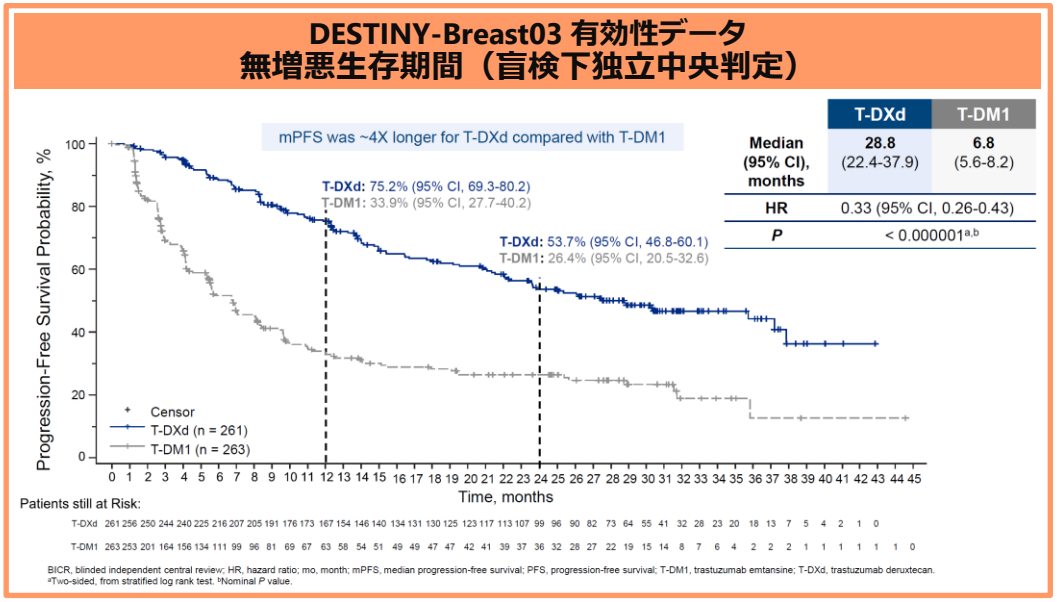
(1ドル=110円換算、契約締結時の為替レート水準)

- 2020年1月　米国で発売

エンハーツ®：製品価値の最大化

- **HER2陽性 乳がん 2次治療の適応取得**
- **乳がん治療の変革**

従来の標準治療薬 T-DM1と直接比較するフェーズ3試験（DESTINY-Breast03試験）で前例のない無増悪生存期間（PFS）*の改善



エンハーツ®　　T-DM1

2022年12月
サンアントニオ乳がんシンポジウム発表データ

- ✓ エンハーツ®の病勢進行もしくは死亡のリスクはT-DM1と比較して67%減少（PFSのハザード比0.33）
- ✓ PFSの中央値はT-DM1の6.8ヶ月(95%信頼区間 5.6-8.2ヶ月）に対し、エンハーツ®では28.8ヶ月(22.4-37.9ヶ月)

米国 （2022年5月）、欧州（同年7月）、日本（同年11月）で承認取得、販促開始
中国で承認申請受理

＊無増悪生存期間 (PFS) ：Progression Free Survival。治療中及び治療後に病勢進行せず安定した状態の期間

エンハーツ®：製品価値の最大化

- **HER2低発現 乳がん（化学療法既治療）の適応取得**
- **従来はターゲットにできなかった新たな治療セグメントを開拓**

HER2低発現 乳がん患者は、乳がん全体の約半数を占め、HER2陽性乳がん患者の約2倍

承認申請を目指して実施したフェーズ3試験（DESTINY-Breast04試験）において主要評価項目および重要な副次評価項目をすべて達成

主要評価項目：ホルモン受容体陽性のHER2低発現乳がんにおける無増悪生存期間（PFS）

- ✓ エンハーツ®の病勢進行もしくは死亡のリスクは化学療法と比較して49%減少
- ✓ PFSの中央値は化学療法の5.4ヶ月 (95%信頼区間 4.4-7.1ヶ月) に対し、10.1ヶ月 (9.5-11.5ヶ月)
  米国臨床腫瘍学会（ASCO2022）での発表データ

米国（2022年8月）、欧州（2023年1月）で承認取得、販促開始
日本、中国で承認申請受理

エンハーツ®と当社ADC技術に対する反響と外部評価

Daiichi-Sankyo

- 米国臨床腫瘍学会（ASCO 2022）で発表された**DESTINY-Breast04試験**の解析結果に対して、**エンハーツ®**が「**乳がんの治療体系を大きく変革する**」として学会参加者が高く評価

- **エンハーツ®の優れた薬効**と**当社独自のADC技術**が高く評価され、**第6回バイオインダストリー大賞**と**第1回ファーマインテリジェンス・アワード・ジャパン**の**Pharma Company of the Year**を受賞

Japan Bioindustry Award
バイオインダストリー大賞

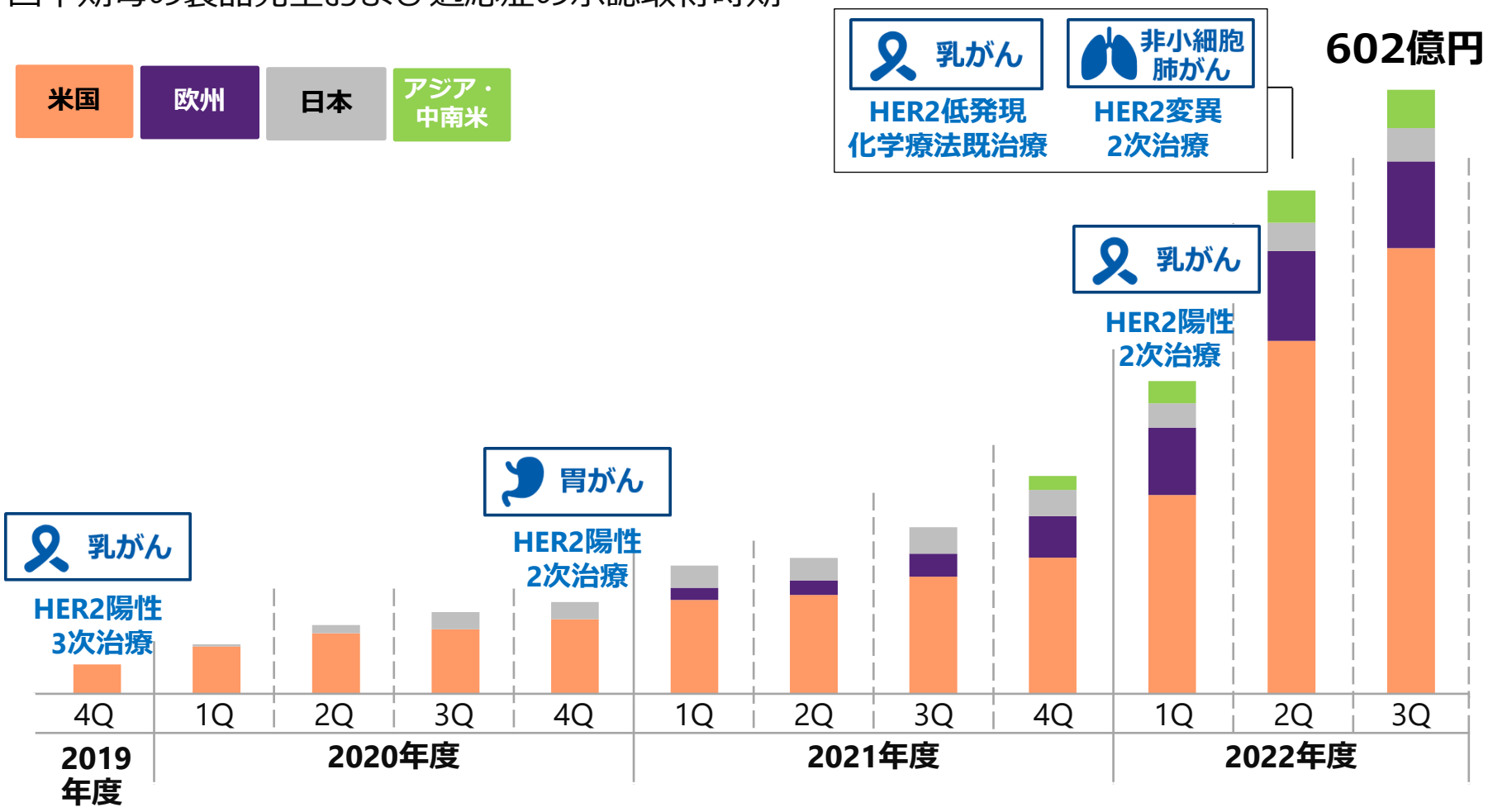
バイオインダストリー協会が、バイオサイエンス、バイオテクノロジーおよびバイオインダストリーの分野の発展に強いインパクトが期待される業績を表彰する賞

英国で17年間続き、世界的に知られるScrip Awardsの日本版。Pharma Company of the Yearはその中で、1年間に最も注目を集めた企業に贈られる賞

エンハーツ®：発売以来の売上推移

着実な市場浸透と新たな適応症の追加により売上が順調に拡大

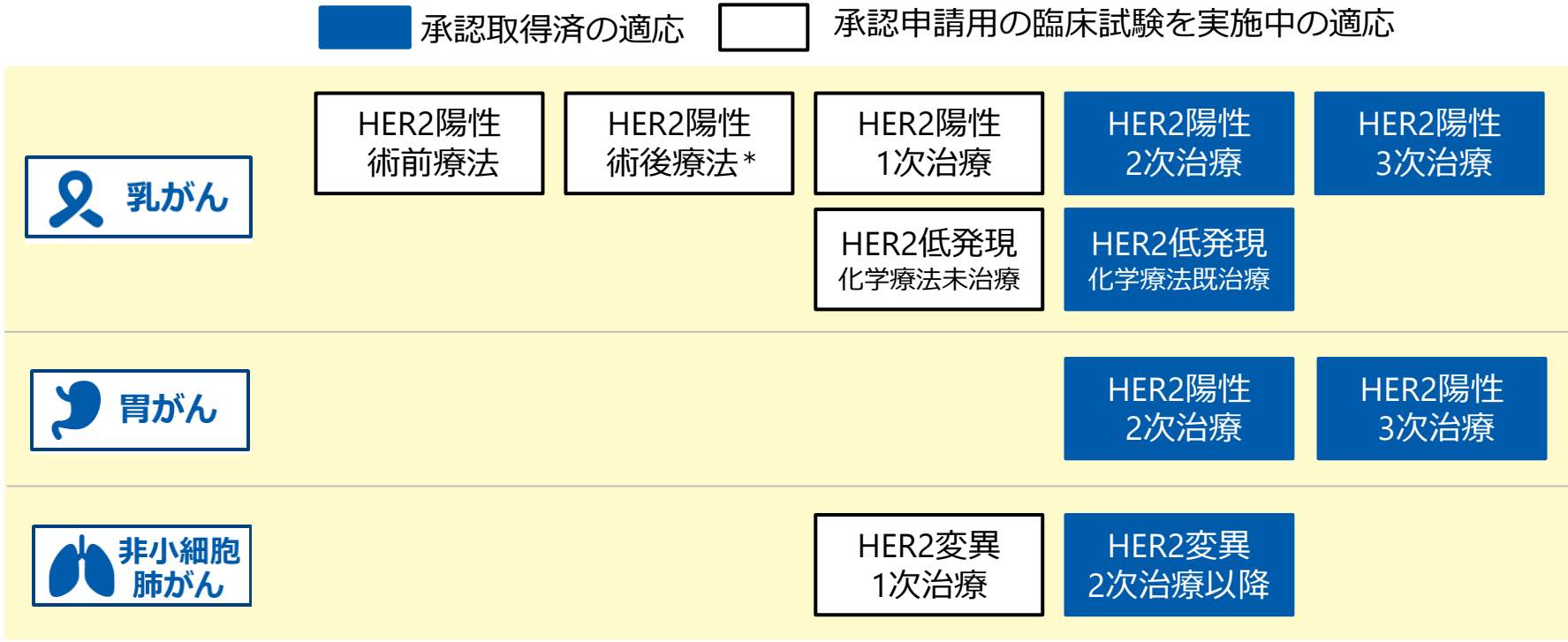
四半期毎の製品売上および適応症の承認取得時期*



＊適応症の承認取得時期：米国における承認取得時期

エンハーツ®：製品価値最大化に向けた開発状況

- 承認取得済の３つのがん種について、より早期の治療段階での適応取得を目指し開発中
- 大腸がんなど他のがん種での適応取得を目指す臨床試験も実施中



＊術前療法後に浸潤性残存病変を有するHER2陽性乳がん患者を対象とする術後療法

（2023年1月現在）

臨床試験の詳細情報：当社ウェブサイトご参照　株主・投資家の皆さま > IR ライブラリ > 決算発表関連資料
https://www.daiichisankyo.co.jp/investors/library/quarterly_result/

Dato-DXd

エンハーツ®と同じADC技術を用いた TROP2抗原を標的とするADC（抗TROP2 ADC）

一般名：ダトポタマブ デルクステカン

アストラゼネカとの戦略的提携 （2020年7月締結）

提携内容： Dato-DXdに関する共同開発・共同販促

対象地域： グローバル

受領対価： 最大で総額 6,600億円

- 契約時一時金　1,100億円
- 開発マイルストン　最大1,100億円
- 販売マイルストン　最大4,400億円

(1ドル=110円換算、契約締結時の為替レート水準)

Dato-DXd：開発状況

◆ 複数の承認申請用の臨床試験を実施中

□ 承認申請用の臨床試験を実施中の適応

非小細胞肺がん	**Actionable 遺伝子変異 あり**			2次／3次治療
	Actionable 遺伝子変異 なし		1次治療（PD-L1≥50%）	
			1次治療*1（PD-L1<50%）	
乳がん	**HR*2 陽性 かつ HER2低発現 または陰性**			2次／3次治療
	HR *2 陰性 かつ HER2陰性（TNBC *3）	術後療法*4	1次治療	

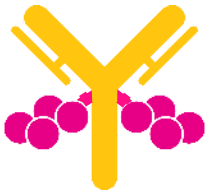
（2023年1月現在）

＊1 非扁平上皮 NSCLC
＊2 HR: ホルモン受容体
＊3 TNBC：トリプルネガティブ乳がん
＊4 術前療法後に浸潤性残存病変を有するTNBC患者を対象とする術後療法

臨床試験の詳細情報：当社ウェブサイトご参照　株主・投資家の皆さま > IR ライブラリ > 決算発表関連資料
https://www.daiichisankyo.co.jp/investors/library/quarterly_result/

HER3-DXd

- エンハーツ®と同じADC技術を用いた
  HER3抗原を標的とするADC（抗HER3 ADC）



- 一般名：パトリツマブ デルクステカン

- 自社単独で開発

開発状況

- ◆ 非小細胞肺がん（EGFR遺伝子変異あり）を対象とした
  複数の承認申請用の臨床試験を実施中
- ◆ 乳がんでの臨床試験も実施中

□ 承認申請用の臨床試験を実施中の適応

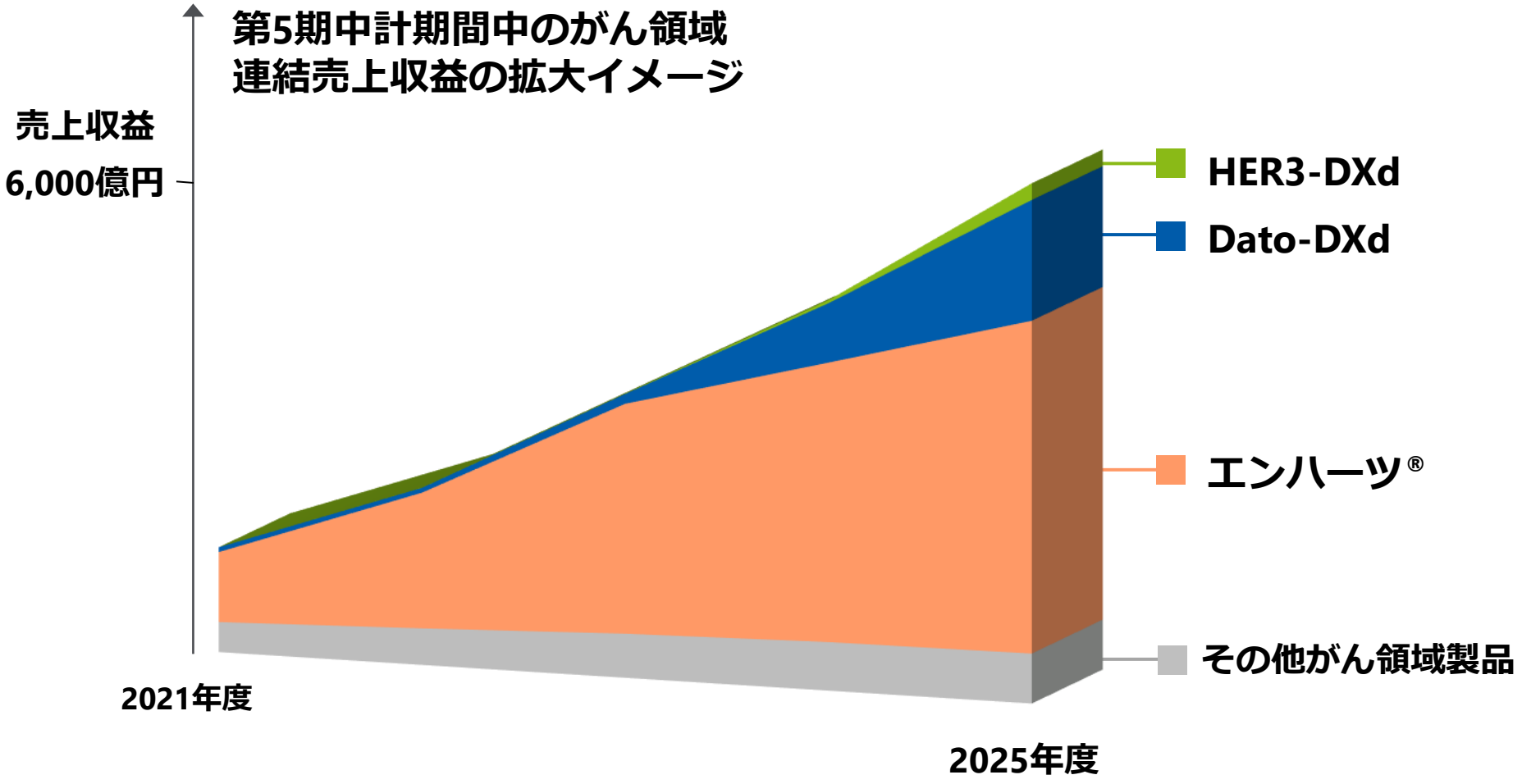
非小細胞肺がん	EGFR遺伝子変異あり	2次治療	3次治療

（2023年1月現在）

臨床試験の詳細情報：当社ウェブサイトご参照　株主・投資家の皆さま > IR ライブラリ > 決算発表関連資料
https://www.daiichisankyo.co.jp/investors/library/quarterly_result/

がん領域の売上収益目標

3ADCの最大化により、
2025年度売上収益 6,000億円以上を目指す



第5期中計 戦略の柱

2025年度目標を達成し成長ステージへ

2025年度計数目標

- ◆売上収益：1兆6,000億円 （がん領域：6,000億円以上）
- ◆研究開発費控除前 コア営業利益率：40%
- ◆ROE：16%以上
- ◆DOE*：8%以上

3ADC最大化の実現

- ◆アストラゼネカとの戦略的提携を通じたエンハーツ®、Dato-DXd最大化
- ◆HER3-DXdの自社開発と最大化
- ◆製品ポテンシャルに合わせた効率的・段階的な要員・供給キャパシティ拡大

既存事業・製品の利益成長

- ◆リクシアナ®利益最大化
- ◆タリージェ®、Nilemdo®等の早期拡大
- ◆新薬を軸とした収益構造へのトランスフォーメーション
- ◆アメリカン・リージェント、第一三共ヘルスケアの利益成長

更なる成長の柱の見極めと構築

- ◆3ADCに次ぐ成長ドライバーの見極め
- ◆ポストDXd-ADCモダリティの選定

ステークホルダーとの価値共創

- ◆患者さん：Patient Centric Mindsetによる患者さんへの貢献
- ◆株主：バランスのとれた成長投資と株主還元
- ◆社会：バリューチェーン全体の環境負荷の低減、およびパンデミックリスクへの対応
- ◆従業員：One DS Cultureの醸成に向けたCore Behaviorの実践

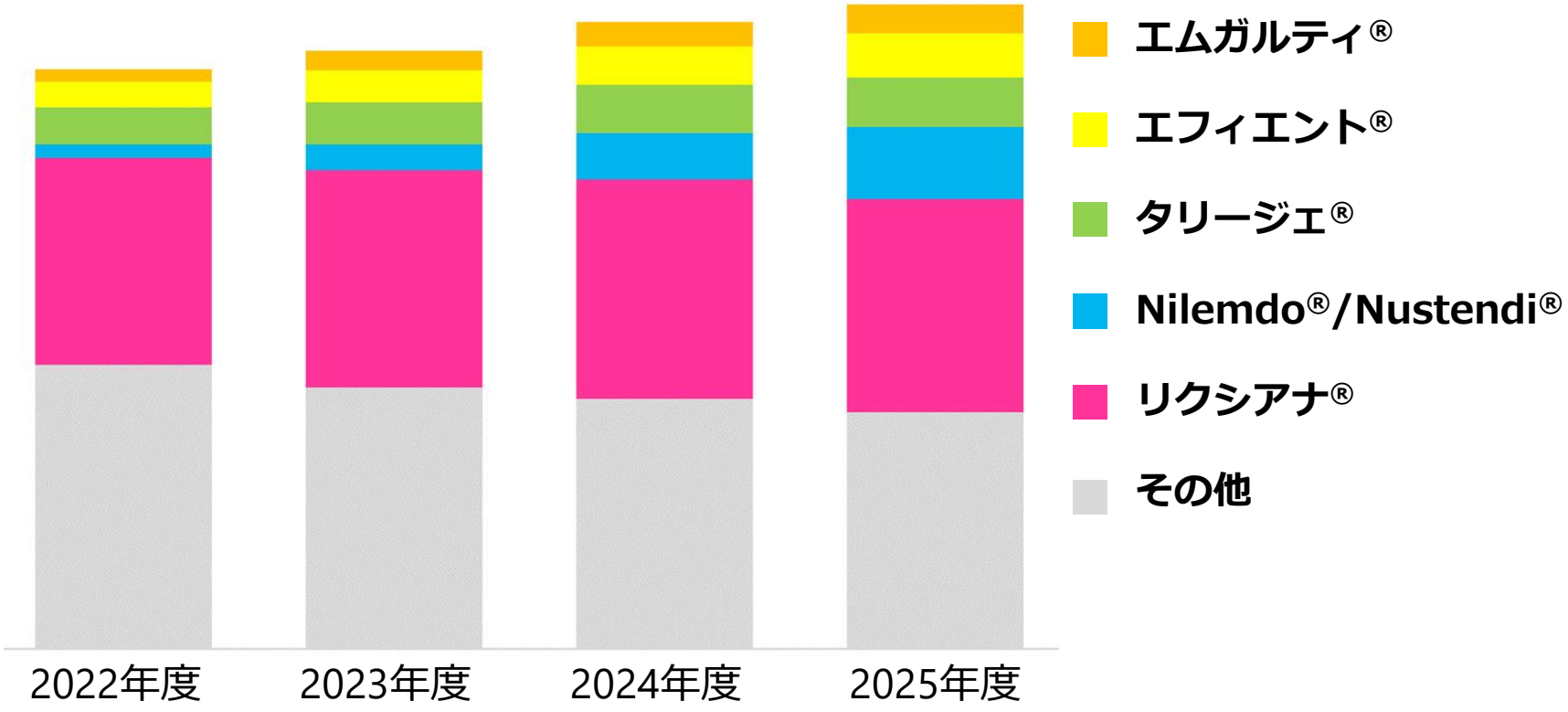
- ◆DX推進によるデータ駆動型経営の実現と先進デジタル技術による全社の変革
- ◆新たなグローバルマネジメント体制による迅速な意思決定の実現

＊DOE：株主資本配当率 ＝ 配当総額 ÷ 株主資本（親会社の所有者に帰属する持分）

既存事業・製品の利益成長

がん以外の領域においても新薬事業を拡大

連結売上収益拡大イメージ



第5期中計 戦略の柱

2025年度目標を達成し成長ステージへ

2025年度計数目標

- ◆売上収益：1兆6,000億円 （がん領域：6,000億円以上）
- ◆研究開発費控除前 コア営業利益率：40%
- ◆ROE：16%以上
- ◆DOE*：8%以上

3ADC最大化の実現

- ◆アストラゼネカとの戦略的提携を通じたエンハーツ®、Dato-DXd最大化
- ◆HER3-DXdの自社開発と最大化
- ◆製品ポテンシャルに合わせた効率的・段階的な要員・供給キャパシティ拡大

既存事業・製品の利益成長

- ◆リクシアナ®利益最大化
- ◆タリージェ®、Nilemdo®等の早期拡大
- ◆新薬を軸とした収益構造へのトランスフォーメーション
- ◆アメリカン・リージェント、第一三共ヘルスケアの利益成長

更なる成長の柱の見極めと構築

- ◆3ADCに次ぐ成長ドライバーの見極め
- ◆ポストDXd-ADCモダリティの選定

ステークホルダーとの価値共創

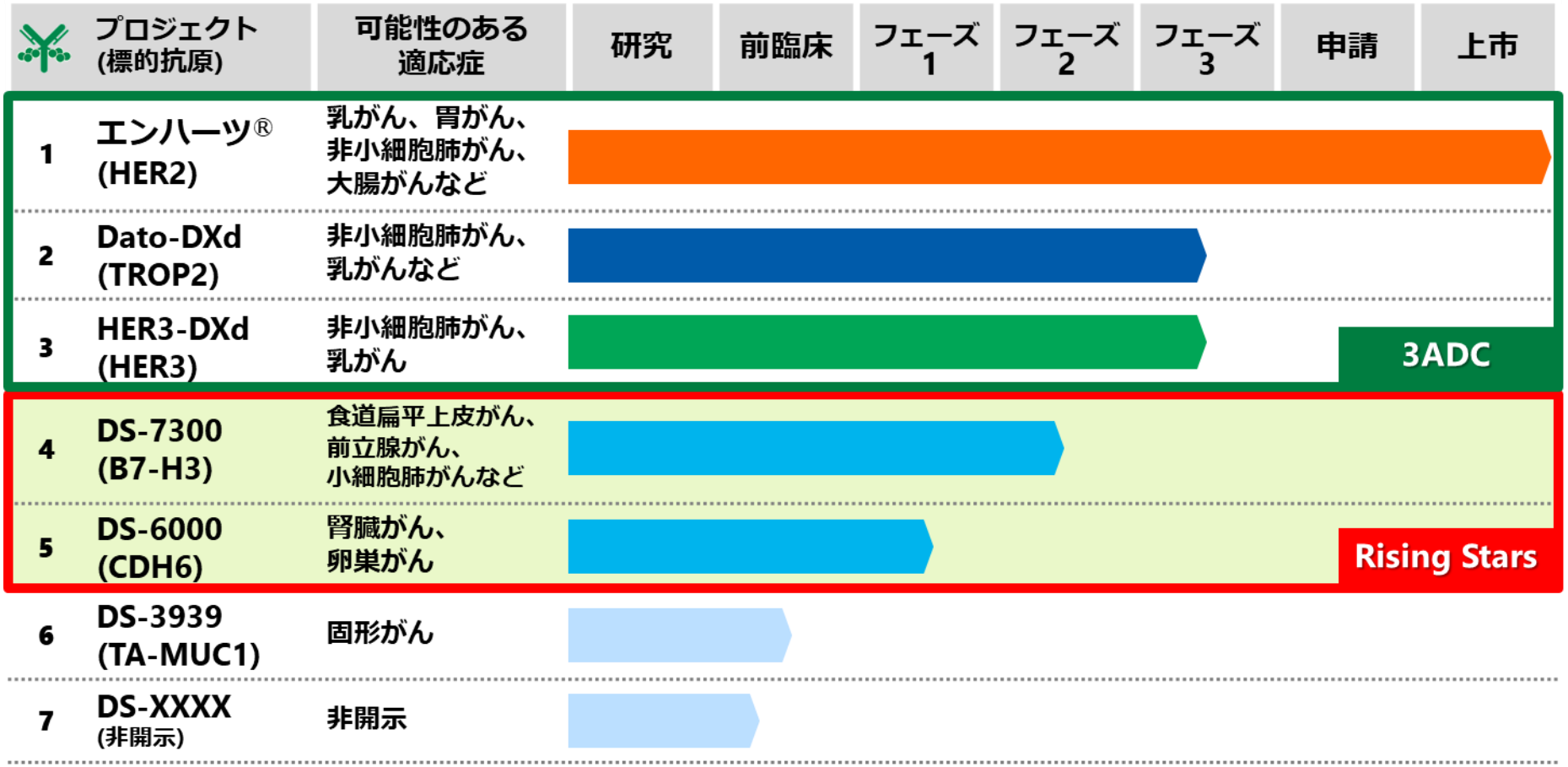
- ◆患者さん：Patient Centric Mindsetによる患者さんへの貢献
- ◆株主：バランスのとれた成長投資と株主還元
- ◆社会：バリューチェーン全体の環境負荷の低減、およびパンデミックリスクへの対応
- ◆従業員：One DS Cultureの醸成に向けたCore Behaviorの実践

- ◆DX推進によるデータ駆動型経営の実現と先進デジタル技術による全社の変革
- ◆新たなグローバルマネジメント体制による迅速な意思決定の実現

＊DOE：株主資本配当率 ＝ 配当総額 ÷ 株主資本（親会社の所有者に帰属する持分）

3ADCに次ぐ成長ドライバーの見極め

臨床試験の進捗に伴い成長ドライバーとしてのポテンシャルが高まってきた
DS-7300（抗B7-H3 ADC）と DS-6000（抗CDH6 ADC）を Rising Stars と位置付け、
多様ながん種での開発を加速

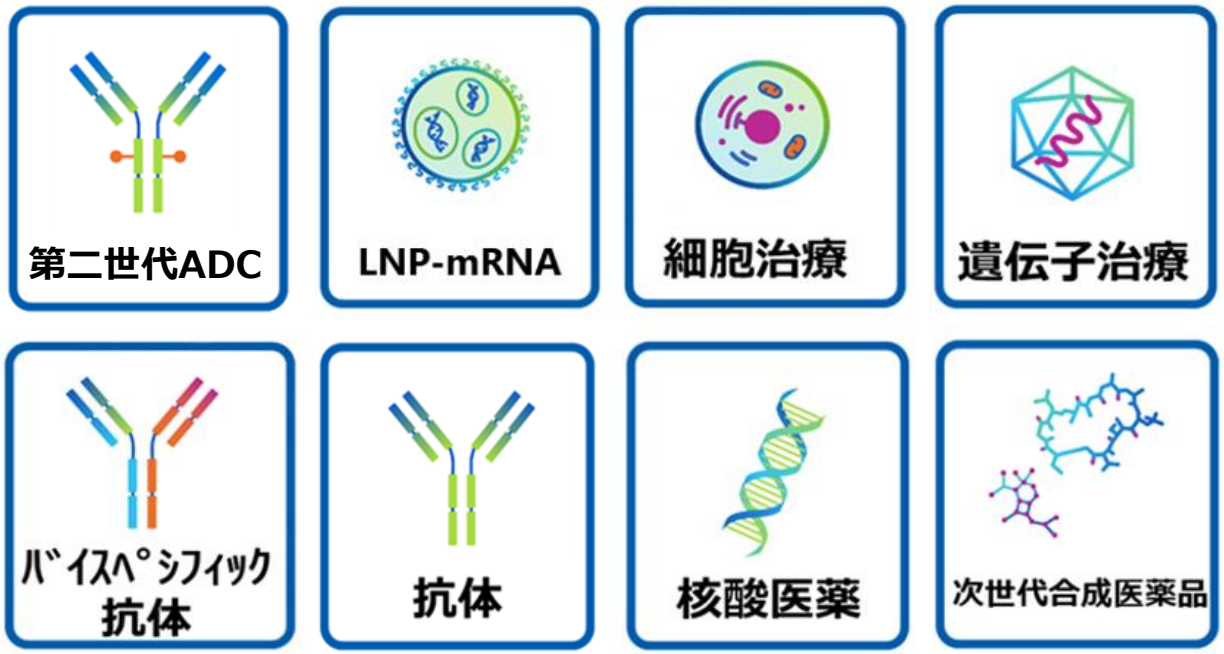


タイムラインは各プロジェクトで最も進んでいるステージを示している

（2023年1月現在）

ポストDXd-ADCモダリティの選定

- ポストDXd-ADCとなるモダリティを多様なモダリティの中から選定
- 技術確立に向けたデータ・ノウハウを蓄積中



第5期中計 戦略の柱

2025年度目標を達成し成長ステージへ

2025年度計数目標

- ◆売上収益：1兆6,000億円 （がん領域：6,000億円以上）
- ◆研究開発費控除前 コア営業利益率：40%
- ◆ROE：16%以上
- ◆DOE*：8%以上

3ADC最大化の実現

- ◆アストラゼネカとの戦略的提携を通じたエンハーツ®、Dato-DXd最大化
- ◆HER3-DXdの自社開発と最大化
- ◆製品ポテンシャルに合わせた効率的・段階的な要員・供給キャパシティ拡大

既存事業・製品の利益成長

- ◆リクシアナ®利益最大化
- ◆タリージェ®、Nilemdo®等の早期拡大
- ◆新薬を軸とした収益構造へのトランスフォーメーション
- ◆アメリカン・リージェント、第一三共ヘルスケアの利益成長

更なる成長の柱の見極めと構築

- ◆3ADCに次ぐ成長ドライバーの見極め
- ◆ポストDXd-ADCモダリティの選定

ステークホルダーとの価値共創

- ◆患者さん：Patient Centric Mindsetによる患者さんへの貢献
- ◆株主：バランスのとれた成長投資と株主還元
- ◆社会：バリューチェーン全体の環境負荷の低減、およびパンデミックリスクへの対応
- ◆従業員：One DS Cultureの醸成に向けたCore Behaviorの実践

- ◆DX推進によるデータ駆動型経営の実現と先進デジタル技術による全社の変革
- ◆新たなグローバルマネジメント体制による迅速な意思決定の実現

＊DOE：株主資本配当率 ＝ 配当総額 ÷ 株主資本（親会社の所有者に帰属する持分）

パンデミックリスクへの対応

- COVID-19に対するmRNAワクチン DS-5670の開発*1が進捗
- 国産mRNAワクチンとして技術確立を目指し、開発・生産体制を強化

主な開発状況

国内既承認mRNAワクチンに対する非劣性を検証するための追加免疫投与におけるDS-5670（起源株）のフェーズ 1/2/3試験*2

- 2022年11月、有効性と安全性を確認し、主要評価項目を達成
- 2023年1月、国内承認申請
  冷蔵温度帯（2-8℃）での流通が可能なmRNAワクチンを目指す

変異株（BA.4-5）対応２価ワクチンの臨床試験を2023年度上半期に開始予定

＊1：DS-5670の研究開発は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の「ワクチン開発推進事業」及び厚生労働省の「ワクチン生産体制等緊急整備事業」の支援を受けて実施しています
＊2：初回免疫（2回接種）完了後、6ヶ月以上経過した健康成人及び高齢者約5,000名を対象とした試験

株主還元

第5期中計期間中（2021～2025年度）の株主還元方針

資本効率の向上

- 3ADCの成長による収益拡大
- 機動的な自己株式取得

2025年度目標：ROE 16%以上

株主還元のさらなる充実

- 配当1株当たり27円の維持に加え、利益成長に応じた増配
- 機動的な自己株式取得

- 株主資本を基準とするDOEの採用による安定的な株主還元
- 株主資本コストを上回るDOE

2025年度目標：DOE 8%以上

株主価値の最大化

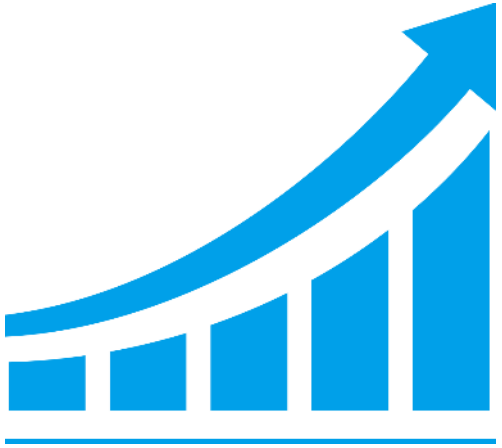
2022年度 年間配当予想

エンハーツ®の想定以上の売上拡大を受け、2022年度の1株当たり年間配当予想を前年度に比べ3円増配の30円に修正（中間配当15円、期末配当15円）

＊DOE：株主資本配当率 ＝ 配当総額 ÷ 株主資本（親会社の所有者に帰属する持分）

2025年度計数目標

- **売上収益**
  1兆 6,000億円（がん領域：6,000億円以上）
- **研究開発費控除前コア営業利益率**
  40%
- **ROE**
  16%以上
- **DOE*
  8%以上



＊DOE：株主資本配当率 ＝ 配当総額 ÷ 株主資本（親会社の所有者に帰属する持分）
為替レートの前提：1 USD=105円、1 EUR=120円

第一三共グループは世界中の人々の
健康で豊かな生活に貢献してまいります

本資料に関するお問い合わせ先

第一三共株式会社

コーポレートコミュニケーション部

TEL: 03-6225-1125　（株式市場関係者の皆様）
03-6225-1126　（報道関係者の皆様）

Email: DaiichiSankyoIR@daiichisankyo.co.jp